中筋川ダム巣箱つくりについて

国土交通省　四国地方整備局　中筋川総合開発工事事務所　特別会員　山崎　隆幸

1．はじめに

中筋川ダムは、四国の西南部の宿毛市と三原村の山間に位置する自然環境に恵まれたダムである。

ダム湖周辺には、数多くの野鳥が見られ、ヤマガラ、ホオジロ、ウグイスなどのほか、ミサゴ、クマタカなどの貴重種も見られる。季節に応じ、ツバメ、マガモ、オシドリなどの渡り鳥も多くやってくる。

ダム諸元

流域面積 21.1 km²、　湛水面積 0.7 km²

ダム高 73.1 m、　堤頂 217.5 m

総貯水容量 12,600,000 m3

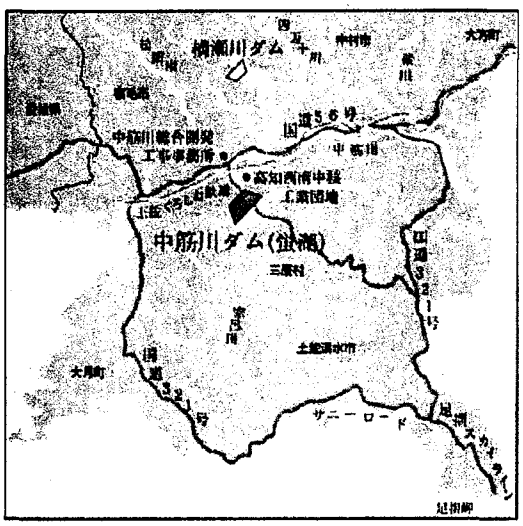


図-1 中筋川ダム位置図

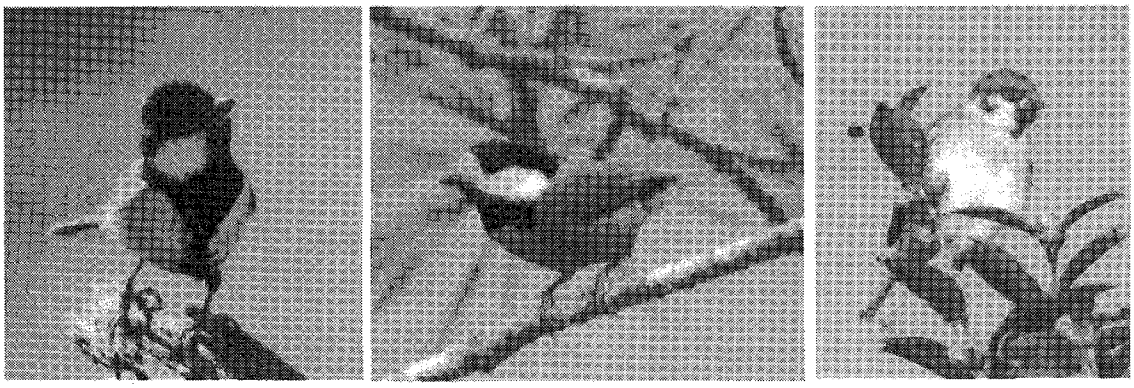
2．巣箱作りの取組について

近年、自然林の減少、隙間のない近代建築の増加は、野鳥の営巣活動に支障をきたし、野鳥が減少する大きな要因となっている。中筋川ダム湖周辺部においても、スギ・ヒノキ等の人工林が多く、大木や老木が減少して鳥たちの重要な営巣場所が減少している状況である。そこで、中筋川ダムでは、平成１０年度より、中筋川ダム湖（蛍湖）周辺の広場・本堤左右岸・管理庁舎周り・多目的広場へ小鳥用巣箱の設置を始め、平成１３年度から定期的な清掃を行い、繁殖状況を調査している。

3．巣箱の利用状況について

平成１０年度以降現在までに、延べ７０個の巣箱を設置し、調査してきた結果、巣箱の利用率は、本年度で鳥類が50.0～100.0%（平均63.6%）、他の動物による再利用も含めた使用率は122.2～200.0%（平均142.4%）となっており、ほとんどの巣箱が利用されていることが確認できた。

巣箱を利用する鳥類は、巣箱出入口の径により特定される。例えば、出入口の径が２．８cmならば、シジュウカラ、ヤマガラ、スズメが利用することが確認できた。



シジュウカラ　　ヤマガラ　　スズメ

図-2　中筋川ダム周辺で見られる主な野鳥

また、巣箱の中で確認された動物類の主なものは、ヤマネ・クモ類・ハエトリクモ類・カメムシ類・ハチ類・ゴキブリ類・アリ類・コウロギ類・ガ類等が確認された。

4，巣箱内の状況

巣材の主材料は鳥により特徴がある。例えば、シジュウガラは、コケ類を下部に積上げ、上部に産座として獣毛・糸状に裂いたスギ皮・綿・毛糸・コケ類等で営巣を行っている（右写真）のに対し、ヤマガラは、シジュウカラと同じくコケ類の上部へ産座として、スギ・ヒノキを細かく裂いた樹皮しか使用しないことが確認できた。（左写真）

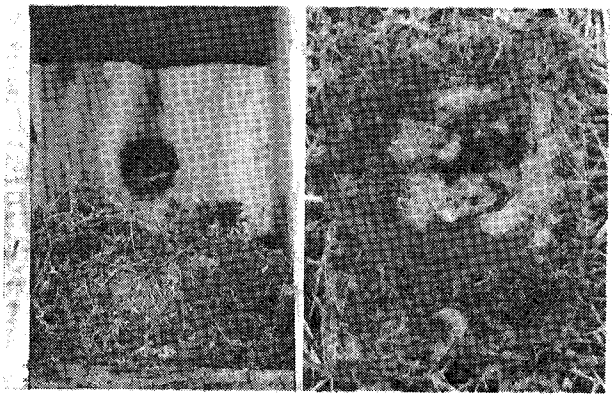


図-3 シジュウカラの営巣

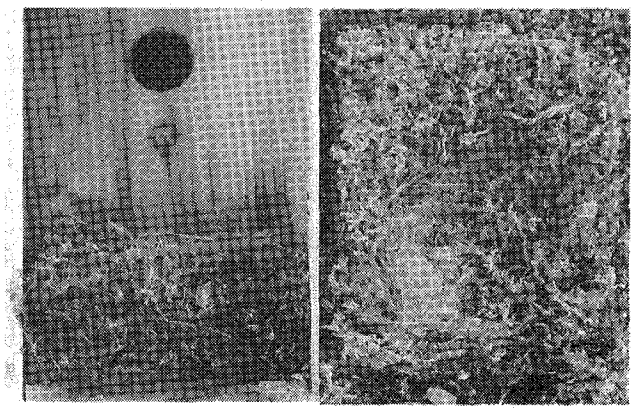
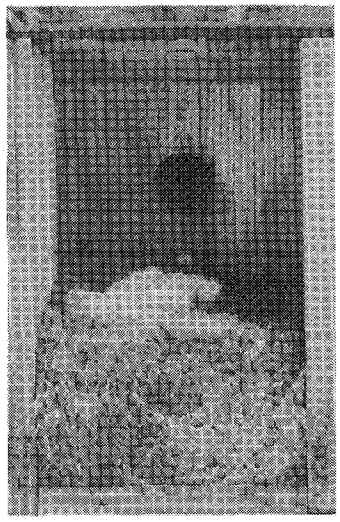


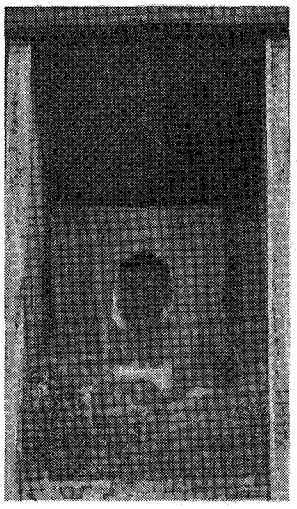
図-4 ヤマガラの営巣

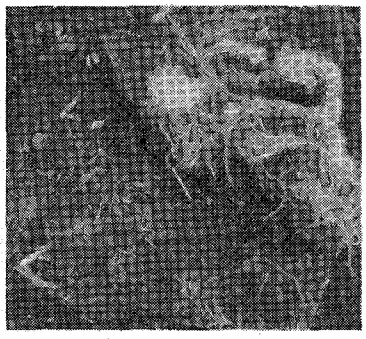
また、厚さが７cmもある立派な巣を作るもの、３cm程の貧弱な巣をつくものと、個体差のあることも判った。

巣箱によっては、１年に同じ種類の鳥、または違った種類の鳥で２度利用されているケースもあり、巣箱が野鳥の繁殖にとって重要な役割を果たすことが認識できた。



上部にシジュウカラの２回目の産座、下部にもシジュウカラの１回目の産座





上部にシジュウカラの産座
下部にヤマガラの産座

図-５　１シーズンに２回繁殖した巣箱

5，おわりに

中筋川ダムでは、平成１３年度以来、巣箱清掃時の状況をまとめている。この中で、判明しているカラ類の繁殖・巣立ち数は、今年度で９７箱（１００巣）となり、巣立った雛も推定で700羽を数える。

また、毎年、一般市民を対象に「自然観察会&バードウォッチング」を年２～３回開催するとともに、巣箱教室を実施し、参加者による巣箱づくりも行っている。今後は、定期的に巣箱を増補しつつ調査を継続していくとともに、フクロウ、セキレイ等の他の鳥類用巣箱作りも考えている。このほか、新たな試みとし、巣箱内へのモニターカメラの設置を行い、営巣状況の内部観察・記録及び映像の一般公開についても計画しているところである。